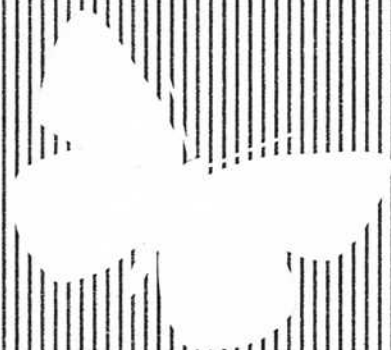


1985 August

蝶談

NO. 52



百万石蝶談会

目 次

1. 誘蛾記 2. 白馬のアズミキシタバ - - - 嵯峨井淳郎 (1)
2. キマダラセセリのホソバセセリ型幼虫 - - - 松井正人 (2)
3. ウラナミアカシジミの採幼 - - - 松井正人 (3)
4. 1985年度ギフチョウ属調査記録 - - - 吉村久貴 (4)
5. 江沼郡山中町のギフチョウ - - - 松井正人 (6)
6. そのうちできる木曾博物館 - - - 大島國雄 (7)
7. 短 報 - - - (7)
8. 治虫に手を染める - - - 中西重雄 (8)
9. 会員の動き・しゃぼの動き - - - 編集部 (9)
10. 例 会 の 記 録 - - - 編集部 (10)

Catocala koreana STAUDINGER アズミキシタバは、長野県や新潟県のごく一部の地域のみには確認されていない珍しい蛾である（*1）。

和名をそのまま活字にすると“安曇黄下羽”となり産地の長野県南安曇郡白馬村の安曇よりきているのが容易にわかる。

カトカラ界懸案となっていた不明食樹の解明は着実に進展し、アズミキシタバの食樹はイワシモツケであることが杉繁郎氏（1982年 *2）により発表されている。

本会の金子二久氏は早くよりこの蛾を標本箱に並べられておられるようで、所用で拙宅へ来ていただいた折に、白馬村でのポイントを伝授していただいた。何とそれは深空野の別荘地内の街灯巡回で簡単に採集可能と聞き、へぼな僕にもなんとか採れそうだなと感じたしだいである。以前から野中氏より熱心な誘いもあり、1983年7月24日午後、二人は糸魚川経由で車を白馬村へとぼす。僕の白馬村採集行は何回目になるのであろうか？ 松井氏、井村氏、吉村氏、諸道氏、橋場氏らと共に数回、そして単独行は数知れない。それは、ギフチョウ、ヒメギフチョウ、フタスジチョウ、ホシミスジ、ウラジロミドリシジミ、アサマシジミなどの標本を見れば何時訪れたかが判明するであろう。

おかげで白馬村の細野・森上・切久保・深空野周辺の細い道路には精通しており、今回のアズミ採集に関しても、ナイター設置場所を何処にするか、ある程度念頭において現地入りすることができた。

日没前現地到着。着目していた地点、白馬盆地細野の民宿街を一望できる位置に直行し、予定どおりの場所（標高1000m位）にてライトトラップを設置することに決定する。

腹ごしらえのために一時下山。今夜はほぼ満月。おあつらえむきに雲が厚くたれこめ、時々時雨れることもある。しかし雲の動きが速く、しばしば月光のノクターン。鬼の野中氏が空をにらみつければ、たちまちに暗雲が厚くたれこめる。しかし、それにしても下界の細野の街灯は何と明るいことか。土曜日の晩ということと夏季休暇に入った暇な大学生風の若者達でにぎわっていることが一因しているのだろうか。

「満月」「街灯」と悪条件が二つも重なりナイターは期待薄であるかにみえたが、平素の行ないよろしく神様のおぼしめしがあり、飛来蛾は少ないにもかかわらず比較的新鮮なアズミキシタバが7頭も採集できたことは幸運であった。

当夜は他の虫屋の姿も見られず（もっとも満月に近い夜に動く馬鹿はいないか）比較的楽な採集であった。ブラックライト点灯直後、野中氏がたてつづけにアズミをネットしたときは相当プレッシャーがかかり焦りに焦った。

金子氏伝授の深空野のヤマメ通り、イワナ通りの街灯も見回ったがこの日は蛾の姿はあまり見られず空足に終わってしまった。

ところで、もう一種の目標であるヒメシロシタバは、切久保～梅池にかけてのカシワ林内に野中氏特製の糖蜜トラップをあらかじめセットしておいたが、こちらは不発に終わってしまった。夜半を過ぎた頃より野中氏のにらみがきかなくなり、本降りの雨となる。松本・奈川・平湯経由の街灯コースをとりやめもと来た道を帰ることにする。

野中氏が助手席で目をつむるのをいいことに僕は愛車をかっ飛ばす。姫川沿いの街灯を2・3箇所寄り道し、エゾシロシタバ、ゴマシオキシタバ、ジョナスキシタバなどを三角紙に入れ帰沢の人となる。

朝の7時には自宅に到着。何はともあれ大切なアズミキシタバを展翅し眠りについて。

参考文献

- 1) 杉 繁郎(1972)日本のカトカラ…その自然誌的展望…第3回 月刊むし(12): 2-11
- 2) 杉 繁郎(1982)アズミキシタバ幼虫の発見 月刊むし(138): 2-6

キマダラセセリのホソバセセリ型幼虫

松 井 正 人

キマダラセセリとホソバセセリの幼虫の顔付きは、大変良く似ている。素人が区別するにはちと難しい。そこでじっくり幼虫図鑑を眺めていると、キマダラセセリの尾端は褐色なのに対し、ホソバセセリのそれは胴体と全く同じ色なのに気がついた。これで見分けることができる。

ここ数年この方法で幼虫を見分け、ホソバセセリだけを採集していた。ところが今回もこの方法でホソバセセリを採集し、飼育していると1exだけ色の違った蛹になった。おかしいなと思っていると、この色違いからキマダラセセリが羽化した。残りはいつもの通りホソバセセリであった。

尾端部が褐色か否かで区別できると思っていたのに、こんな事が有ったので幼虫図鑑を読み直してみると、つぎの文が載っていた。”キマダラセセリは尾端の肛上板が胴部と等しい淡緑色のものから、やや褐色を帯びるもの、全面黒褐色を呈するものまである。ホソバセセリでは常に胴部の地色と同色である。”



(原色日本蝶類幼虫大図鑑VOL II)

肛上板

それにしても、良くこれまでこの方法でキマダラセセリとホソバセセリの区別が出来たものである。褐色型のキマダラセセリは良く目に付くので、ホソバセセリ型の幼虫が少ないのかも知れない。今度良く調べて見る必要がある。

ウラナミアカシジミは巣を捜すことによって幼虫は簡単に採集できる。そしてそれは3令幼虫の時が良い(月刊むし:NO.14 浜栄一)。しかし3令幼虫時とはいったいつ頃か?

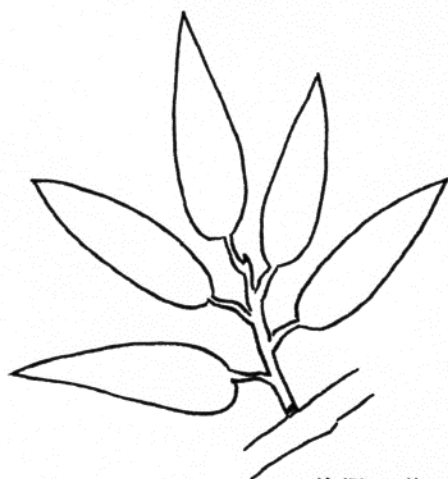
1985年4月28日森本の低山(標高100~200m)を歩くと、アベマキの葉は開いているのに、その隣でクヌギの葉はまだ伸びていなかった。アベマキの下枝を下から見上げると、巣が見付かり3令幼虫(脱皮直後)が簡単に見付かった。

5月5日小松市付近(標高0~100m)で、クヌギの下枝を丹念に見上げていたが、全く巣は見付からなかった。ところが林縁から道路1本隔てた反対側にあるクヌギを捜してみると、下枝に10数個の巣が簡単に見付かった。(2令、3令)

5月11日倶利伽羅峠付近(標高200~250m)へ行くと、アベマキの葉は大変大きくなっていて下から見上げると、一番下の葉裏しか見えなかった。しかしそのころクヌギの葉はアベマキより幾分小さかったので下から見上げて巣を探したところ、3令幼虫の巣が1個見付かった。その木に登って今度は上から見下ろして捜したところ、簡単に数個の巣が見付かった。(3令)

1985年のウラナミアカシジミの採幼は、ゴールドンウイークの頃が最適であったと思われ、葉がまだ小さく疎な時は下から見上げても十分に巣は見付かり、葉が大きくなり葉と葉が触れ合うようになると、今度は上から見下ろした方が巣は見付かり易いと思われる。また小松市の様に、林縁より少し離れた処にある食樹の方が巣は見付かり易いのではないかと思われる。その巣は、芽全体の葉が先端を揃えて寄せ集められ、とんがり帽子の様な形をしていた。

最後に一言付け足すと、巣の中には他の幼虫(蛾)が同居していたこともあったので、違う幼虫がいたからといって簡単にその巣を見捨ててはいけない。角の方でどちらが主人か分からない顔をしたウラナミアカシジミの幼虫が見付かることもある。



普通の葉



巣の様子

★4月6日(土) 加賀市牛ノ谷峠(林道高地線)

(採集) ギフチョウ 2♂

(目撃) テングチョウ、ヒオドシチョウ、ルリシジミ、コツバメ、
スジボソヤマキチョウ 2♂3♀

国道8号線より山手に折れて、林道高地線を5分程走ると舗装が切れる。この辺りでギフチョウを採集したが、越冬汚損したスジボソヤマキチョウがさかんに飛びまわっていた。クロウメモドキは確認しなかったが、秋期の採卵調査によるミヤマカラスシジミも期待できる。

★4月6日(土) 加賀市曾宇(林道深谷線)

(採集) ギフチョウ 1♂

(目撃) テングチョウ多数、ヒオドシチョウ、ルリタテハ、コツバメ、
ルリシジミ、スジボソヤマキチョウ

曾宇から寺尾観音にいたる林道深谷線で、ギフチョウ1♂を採集した。この林道では以前にもギフチョウを採集している(*1)。

★4月6日(土) 加賀市日谷

(目撃) テングチョウ、ルリタテハ、ルリシジミ、
スジボソヤマキチョウ1♀

日谷部落より刈安山に向かう林道を調査したが、ギフチョウの目撃は出来なかった。

★4月6日(土) 江沼郡山中町我谷ダム

(目撃) ギフチョウ1ex、テングチョウ、スジボソヤマキチョウ1♂1♀

我谷ダムのダム湖にかかるつり橋付近で、飛翔中のギフチョウを目撃した。おそらく♂個体と思われるが確認は出来なかった。

★4月14日(日) 金沢市平栗

(目撃) ギフチョウ、ルリシジミ

天気が良いので、ギフチョウとカタクリの撮影のため、平栗に出かけた。カタクリは満開、平栗の手前のスマレの咲き乱れた道路脇でギフチョウを撮影した。ギフチョウはほぼ完品であった。当日、竹谷ファミリーと田辺夫妻に出会った。

★4月20日(土) 小松市尾小屋

(採集) ギフチョウ 1♂

(目撃) ルリシジミ 1♂、コツバメ 1♂

大倉岳のミズバショウ撮影のため、午後から出発。登山口となっている尾小屋鉾山資料館横でギフチョウ1♂を採集した。ややスレた個体であった。

★4月21日(日) 長野県北安曇郡小谷村黒川

(採集) ヒメギフチョウ 10♂

(目撃) ルリシジミ、スギタニルリシジミ多数

例年よりやや早い感があったが、中西氏、勝海氏、野村氏とAM6:00に金沢出発。糸魚川より見る山並は真白で早過ぎると思われた。AM8:40現地到着で、9:30~12:30でヒメギフチョウ10♂をネットした。ややスレた個体もいたが羽化したての♂が多く、♀も採集されたようである。快晴のせいか例年になく飛翔個体が多く、カタクリにはしっかり停止するので写真撮影にはむく。

名古屋から来た2人連れ(尾張小牧ナンバー)も30exs づつぐらいネットしていたので、120~130exs ぐらいは採集されたようである。ヒメギフチョウもまだまだたくさんいるのですねー。

★5月3日(金) 長野県北安曇郡白馬村細野

(目撃) ギフチョウ 2 exs

ヒメギフチョウより遅れて発生するという白馬のギフチョウを狙って、白馬村細野へ。2 exs目撃したが、ネットできなかった。

★5月3日(金) 長野県北安曇郡小谷村黒川

(採集) ヒメギフチョウ 56卵

4月21日には芽吹いていなかったウスバサイシンもしっかりと葉を開いており、10株ほど捜したところ50卵程見つかった。

★5月12日(日) 石川郡河内村板尾

(目撃) ギフチョウ1♀、ミヤマカラスアゲハ、カラスアゲハ多数

オナガアゲハ、キアゲハ1♂、サカハチチョウ多数、

テングチョウ、コチャバネセセリ1♂

ミヤマカラスアゲハの撮影に出向いたが、板尾の車止め付近の湿地地で吸水するPapilio集団を撮影した。不動滝の滝つぼ付近で、スマレで吸蜜するギフチョウ1♀(汚損)を目撃した。板尾では、以前にもギフチョウを目撃している。

(*2)

参考文献

- (1) 吉村久貴 翔 NO.41(1983) 加賀地方におけるZephyrusの新産地 その2
- (2) 吉村久貴 翔 NO.17(1980) 河内村板尾谷採集記

1984年は江沼郡山中町に於いて、ギフチョウの棲息をいくらか調査することができたので、その結果を報告する。

- ★山中町我谷ダム右岸 (採集) 1984年4月29日 1♀
(確認) 1984年5月13日 1卵塊8卵
ダム河畔の県道沿いに、美しい斑の入ったヒメカンアオイがたくさん見られ、その1枚の葉裏より卵を発見した。
- ★山中町枯淵
集落裏の林道を行くと、生えが細かい雑木林の中にたくさんのヒメカンアオイが見られたが、4月29日、5月13日両日の調査でギフチョウは確認できなかった。
- ★山中町大内 (確認) 1984年5月13日 1卵塊7卵
集落より富士写ヶ岳への登山道を行くと、雑木林の中にヒメカンアオイがみられ、卵も簡単に見つかった。
- ★山中町生水 (採集) 1984年4月29日 2♂
(確認) 1984年5月13日 2卵塊15卵
伐採されたスギ林を抜けると、雑木林の中にヒメカンアオイが見られた。4月29日には成虫6exsも目撃している。
- ★山中町県民の森立杉峠(確認) 1984年5月13日 1卵塊7卵
峠付近のナタデラカンアオイより卵を発見した。この付近にはヒメカンアオイは見られない。どの辺りより置き変わっているのだろうか。
- ★山中町今立 (目撃) 1984年4月29日 1ex
車を運転中、道路上を飛翔中の個体を目撃した。
- ★山中町鶴ヶ滝 (採集) 1984年4月29日 1♀
(確認) 1984年5月13日 1卵塊7卵
ここはナタデラカンアオイとヒメカンアオイが混生しているが、短時間の調査では、ヒメカンアオイからしか卵は発見出来なかった。
- ★山中町菅生谷 (確認) 1984年5月13日 2卵塊16卵
ここもナタデラカンアオイとヒメカンアオイが混生している。ここではどういふ訳か、ナタデラカンアオイからしか卵は発見できなかった。

★山中町千束滝

スギ大木林の中に多数のヒメカンアオイを確認したが、ギフチョウの発見までには至らなかった。

そのうちできる木曾博物館

大 島 國 雄

長野県木曾郡上松町の“寿伊舎”にはいくつか標本展示がしてあるけれど、別室に標本箱を積み上げてあるので木曾へ足を延ばした時に是非お立ち寄り下さい。

蝶談会の皆様は特に大歓迎。所有している標本は、タイ、フィリピン、インドネシアそれに日本産。ドイツ箱40箱程度。

これだけではとても博物館とは言えないけれど、予定では100箱ぐらいにしたつもり。それもこれも、金沢の蝶談会の皆様の協力が無ければとても無理。是非御恵みを！！

短 報

- | | | | | |
|--------------|------------|----------|--------|------|
| ★ ツマジロウラジャノメ | | | | |
| | 1985年6月16日 | 吉野谷村笠山林道 | 1♂採集 | 野中 勝 |
| ★ オオヒカゲ | | | | |
| | 1985年7月27日 | 金沢市角間 | 1ex目撃 | 松井正人 |
| ★ ミドリシジミ | | | | |
| | 1985年7月14日 | 金沢市涌波 | 1♂目撃 | 野中 勝 |
| ★ アカシジミ | | | | |
| | 1985年6月9日 | 白峰村百合谷林道 | 1ex採集 | 中西重雄 |
| ★ ミスジチョウ | | | | |
| | 1985年6月9日 | 白峰村百合谷林道 | 2exs採集 | 中西重雄 |
| | 1985年6月9日 | 白峰村大道谷 | 1ex確認 | 松井正人 |
| ★ オオミスジ | | | | |
| | 1985年6月13日 | 金沢市小豆沢 | 1ex目撃 | 松井正人 |
| | 1985年7月25日 | 金沢市角間 | 1♀確認 | 松井正人 |
| ★ メスグロヒョウモン | | | | |
| | 1985年6月14日 | 門前町滝川 | 2♂採集 | 松井正人 |
| ★ オオヒョウタンゴムシ | | | | |
| | 1985年6月 | 羽咋郡柳田 | 1♂1♀採集 | 中西重雄 |

最近蝶の他にも何か他の虫をやりたいと思っていたのです。カミキリ、蛾、クワガタ、その他甲虫、なんでも良かったのですが、手頃な虫がないものかと思っていた所、野中氏よりゴーインに誘われたのが、あの馨しい香りのする虫、治虫だったのです。聞く所によると、石川県に産するオサは6種、それにカタビロオサが3種の9種類と少なく、これなら甲虫類の手初めに私にでもやれるのではと思われたのです。

最初に採集に出掛けた能登島へのマイマイカブリ掘りが、のめり込むきっかけとなったのです。私は採集方法も知らず、採集道具も持たず出掛けたのですが、野中氏のもくろみで氏は私用のピックルまで用意して、“これで掘れ”と言うのです。当初はあまり本気では無かったのですが、最初に1頭のマイマイカブリを私が朽木から採ったのが悪かったのです。私も割りと乗りやすいタイプなので、あちこちの崖や朽木を崩して10数頭のマイマイを掘り出したのです。マイマイや他の治虫も割りと簡単に採れる事が分かり、これならゼフ採卵の片手間にでもやれるし、展足して見るとなかなか良い虫だと思ったのです。このようにして治虫にノメっていくようになり、今では治虫狂になってしまったのです。この治虫の良いところは、採集は天候などには全く左右されずに出来る所です。雨が降れば蝶はだめでも治虫があるし、私など日曜日しか休日が無い者としては、雨でも採れる虫がいるということは誠にありがたい事です。皆様も手軽に出来てスバラシイ虫治虫をやってみませんか！

私が治虫をやりだしてからこれまでに採集したオサは、マヤサン、アキタクロナガ、クロナガ、オオオサ、ホソヒメクロオサ、マイマイの6種類です。残る平地産のオサはカタビロオサ3種を抜かして、ヤコンオサ(トヤマオサ)だけだったのですが、ヒョンな事から産地が分かったのです。1985年5月1日次女の鈴奈が学校の帰り道に1頭のオサを拾ってきたのがトヤマオサだったのです。なんと私の住む金沢市法島町の崖が一大産地である事が判明したのです。私の家の前は竹やぶで、皆さんも御存じの通り寺町台地と犀川の間に崖が続く所です。この竹やぶは崖崩れ防止の為に植えられたものらしく、私が生まれる前から今日まで殆ど自然環境が変わっていないようで、トヤマオサが住み着くには良い環境が長続きしているようです。このように平地性のオサ、ヤコンは他のオサと住み分けしているように思われます。ヤコンオサを求めてこれまで何回か採集に行ったのですが採ることが出来ず、ヤコンを採りたいと思っていたのがヌアンと私の家の前に大産地があったのです。燈台元暗しとはこのことです。

トヤマオサ *Carabus yaconinus blairi* はヤコンオサとしては比較的小型で黒色、僅かに青味を帯びていることが多いが、法島産の中には暗銅色がかった個体も少し交じるようです。

会員の動き・しゃぼの動き

★木曾の井沢氏は、例の長野県西部地震の影響をもらにうけて、冬期は御岳スキー場のアルバイトができないので大阪方面へ出稼ぎに出ていたが、いつの間にか山梨県へ入り込んだようである。なんでも昔の仲間と二人で資本を出しあい、ペンション経営を企画しているみたいだが、既に棟上げは完了している由。収容人員は20人程度のもらしく、八ヶ岳・入笠山周辺へよく出かける方は便利なのではないか。

TSU-I-SOなどに宣伝を載せると聞くが、場所が場所だけに東京の虫屋が利用しやすいことは間違いない。金沢からはちょっと遠いかな。

★'84-11月例会の際に、松井幹事の音頭で能登方面へのゼフィルス採卵会が決定していたが、石動山・宝達山・宝立山などへ野中・中西・松井グループが挑戦し、エゾミドリなど数種を出した模様。詳細報告はいずれ本誌に発表される筈なのでここではこれくらいに記録しておく。

★'84-12月31日、大晦日だというのにのんきな虫屋4人、中宮あたりでスキー採卵を楽しみ、フジ、アイノ、ジョウザン、エゾなどのゼフィルスをとってあさったという。さてこの4人とはいったい誰か。

★おめでたい話があるので御知らせしておこう。

松井夫婦に4月7日長男翔太郎君誕生
井村夫婦に5月27日次男 翔 君誕生
田辺夫婦に6月28日長男元 気 君誕生
あまり自由がきかなくなる人が、ま

た増えそうなので喜んでいのがいるが、誰だそんなことを考えているのは。

★新刊書籍類の御案内

写真集“日本の高山蝶(渡辺康之)”が保育社より発行された。カラー129枚で、なかでも彷徨える旅人“コヒオドシの大群”が見ごたえ充分。

待ちに待った“日本産蝶類文献目録(白水 隆)”がついに北隆館より発行された。ところが今回は1977年までの文献目録で“翔”の名前は全く出てこない。1978年以降については、今年秋頃の予定らしい。

★百万石蝶談会という名称を変えては、という意見が聞こえるが、会員一同どのように思っているのでしょうか。『変える必要なし、変える必要あり』賛否両論は必定。

★最近オサムシ熱が猛威をふるっている。2人のN氏が重体らしい。近付くと危険。感染源はどうやら東日本オサムシ研究会らしい。

★5月5日勝海、野中、中西の3氏はチャマダラセセリを求めて長野県開田高原へ。チャマダラで満腹した3氏はデザートにムモンアカとカラスジミの幼虫を採集したらしい。採集報告はいずれ本紙に発表。

★オサムシ掘りに熱心な2人のN氏、一時ある種を得んが為釈迦岳へ通いつめたらしい。おかげで釈迦道はうき石が多くなり、善良な登山者の不評をかかてるらしい。

★金子氏ひそかに和歌山県大塔山に潜入し、カトカラ最後の珍種ヤクシマヒメキシタを手中に収めたいらしい。

★7月14日我らが会長井村氏、某所にて愛虫ボランティアに尾行される。なんでも車の中のネットが原因らしい。

★7月21日野中氏、白峰村大杉谷にてムモンアカの蛹を採集。アリの巣を掘ったら出てきたらしい。詳細は次号報告。

★7月21日吉村教諭、単身湯ノ丸へ。現地だけは晴れていたらしい。

★7月21日野村氏、ミヤマカラスアゲハを求めて河内村板尾へ。時期はずれか春のような大集団吸水は見られなかったらしい。”前日に誰か採ったんじゃないの プンプン”と言ったか言わなかったかは知らない。

★7月28日井村会長、日帰りで木曾御岳山へ。何を採りに行ったやら。

例会の記録

★'84-12-29(土) 中西宅において1984年最後の例会を開催した。ただならぬ大雪にもめげず出席者は、中西夫妻、松井、野中、吉村、山岸、松田、井村、吉岡、野村、勝海、。

47号から49号までまとめて作成配布され、なかでも松井パンチャー作成のワープロの出来ばえが大変好評で、今後、編集局は松井幹事をお願いすることとなった。

その他1984年石川県昆虫界10大ニュースの決定(詳細報告は翔50号)

また1985年からの例会は、偶数月の第1金曜か土曜となった。

★'85-2-1(金) 中西宅において1985年初の例会(かねてより素晴らしいとの声が高かった中西式蝶額の作りかた講習会)を開催。出席者は、井村、小幡、高平、中西夫妻、松井夫妻、野中。

ギフチョウ、オオムラサキ、ジャコウアゲハ等、各々好みの蝶を入れ作成。蝶額セットは2個(20×15cm、15×12cm)で1000円也。

その他N氏の発案で”第1回お気に入り標本大きさ比べ”を行う。

★4月5日(金) 新築OPENの城南管工事務所にて例会を開催。出席者は井村、小幡、近藤、竹谷、田辺、中西夫妻、松井、野中、野村、山岸、吉村。

翔記念特大号44ページを配布。シールプリントの写真がなかなか好評。

蝶談会スライド3人衆による映写会。小幡(アリ)、松井(虫屋の四季 1984)、竹谷(四季の蝶)。

★6月7日(金) 城南管工KKにて例会。出席者は井村、勝海、高平、竹谷、中西夫妻、松井、野中、野村、松田、吉村、近藤。

特別ゲスト、金大ガン研の吉川教授による食性講座(アゲハ類は昔何を食べていたか)。ヒメカンアオイで各種アゲハの飼育羽化、ウマノスズクサによるギフチョウの飼育羽化等、スライドを使用して行なわれる。

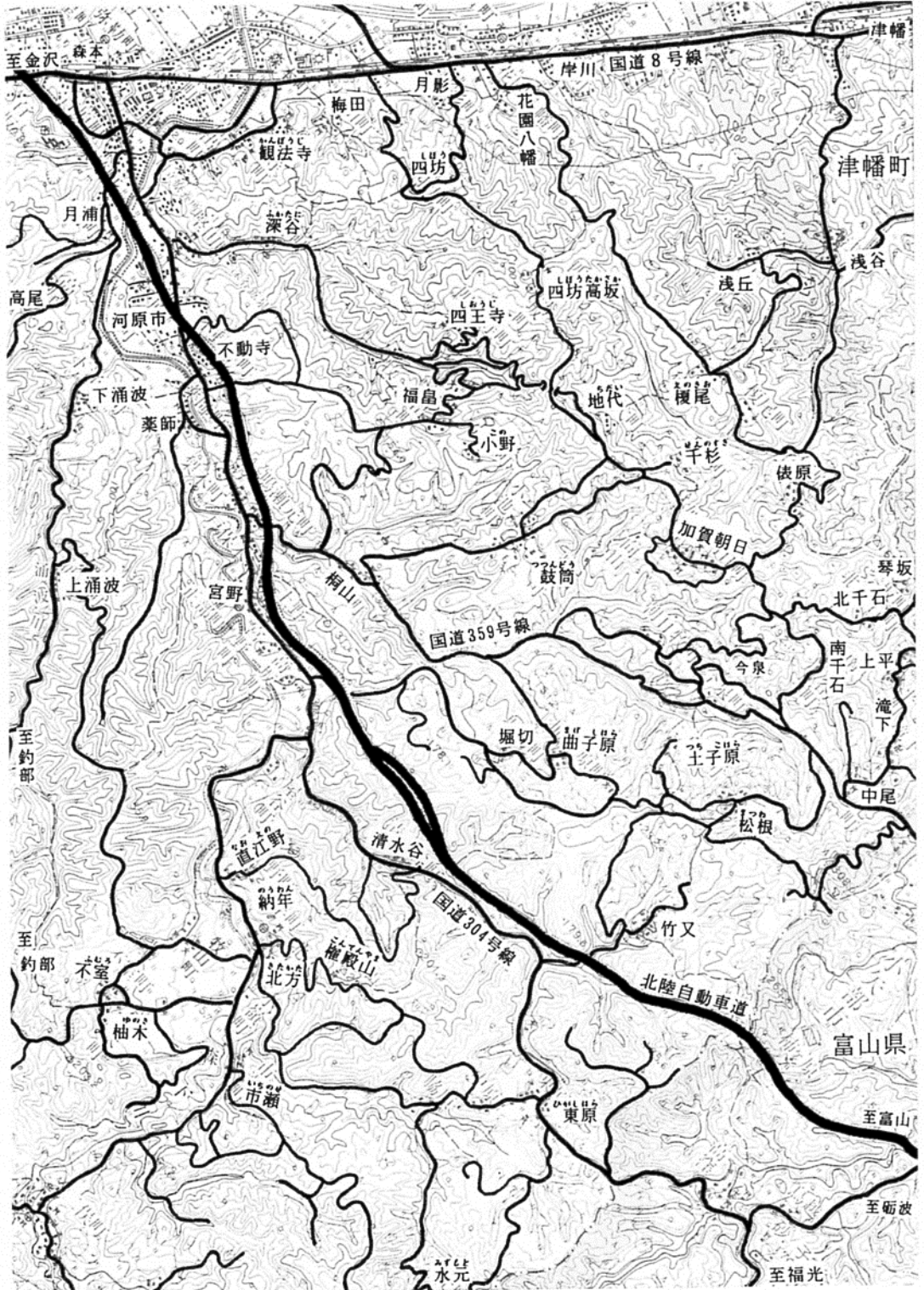
つづいて4月のスライド大会で感銘を受けた吉村新米教諭によるスライド発表会第一弾(4月5月行動の記録)。今後連続の予定。

翔51号の配布。52号の原稿依頼。

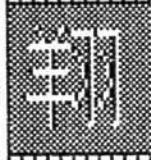
8月の新月カラオケ採集会は、野中幹事が音頭をとる。

森本付近図

1:50000



オオヒカゲやウラナミアカシジミの舞う森本丘陵での採集はいかが？



とぶ NO. 52 1985年 8月 2日(金) 発行

発行 金沢市大場町東871の15 松井正人方 百万石蝶談会

編集・校正 松井正人